

淀川水系流域委員会 第1回木津川上流部会 結果概要

開催日時：2005年4月20日（水）13：30～16：35

場 所：名張シティホテル 3階 天平・白鳳の間

参加者数：委員 11名（うち3名は他部会委員）

河川管理者（指定席）19名、一般傍聴者（マスコミ含む）111名

本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細な議事内容については、後日公開される議事録をご参照下さい。

1．決定事項

2．報告の概要

第43回運営会議結果報告、テーマ別部会の委員構成について

3．審議の概要

委員会の目的・任務と木津川上流部会の役割の確認、部会の進め方について

河川整備計画基礎案に基づく事業進捗状況の点検について

前期委員会からの検討経過報告の確認

木津川上流部会の課題について

ワーキンググループ設置の必要性について

現地視察、今後の部会について

4．一般傍聴者からの意見聴取

1．決定事項

- ・部会の運営方法や課題等は、河川管理者も閲覧できる委員によるメーリングリスト等を利用して意見交換しながら検討していく。

2．報告の概要

第43回運営会議結果報告、テーマ別部会の委員構成について

庶務より、報告資料1「第43回運営会議結果報告」、報告資料2-1「部会委員構成一覧表」、報告資料2-2「部会の委員名簿」を用いて報告がなされた。

3．審議の概要

委員会の目的・任務と木津川上流部会の役割の確認、部会の進め方について

- ・流域委員会は、国交省の委嘱により設置された委員会。後期委員会に課せられた役割は5つ。河川整備計画の進捗状況へ意見を述べる。河川整備計画の変更について意見を述べる。住民意見反映方法について意見を述べる。整備計画が策定されるまでの河川事業、ダム事業の再評価、事業評価について審議し意見を述べる。河川整備計画

策定後の事業評価について審議し意見を述べる。木津川上流部会では、河川整備計画の進捗状況への意見が1つの柱となる。本日の部会では、木津川上流部会をどう運営していくか、部会の役割と進め方について意見を頂きたい(部会長)。

- ・各地域部会の固有の問題については、他部会との調整して審議を進めて、全体委員会で検討・承認するという段取りで進めて頂くのがよいと思っている。木津川上流部会では、せめて三川合流地点までを検討範囲にしたい。
- ・流域委員会では、水系全体を重視して議論してきた。木津川だけを考えればよいというわけではない。水系全体を視野に入れて木津川を考えるべきだ。
- ・河川管理者の認識と委員の認識には、オーバーラップしているところもあるし、そうでないところもある。任期2年間での到達目標を委員の共通認識にしておいた方がよい。漫然と議論してはいけない。部会構成は河川管理者の管轄で決まったということだが、川上ダムの利水は下流域全体に関わることだ。流域全体で考えないといけない一方で、地域固有の問題についても検討して、全体委員会に報告していくことが大切だ。
- ・部会としては、以下の2つが重要だ。議論の枠に設けずに、水系全体、集水域全体のことを考えないといけない。2年間の目標を持って実質的な議論をし、検討を収束させないといけない。

「収束」というのがよくわからない。調査検討項目の中で任期2年間の重点ポイントを河川管理者がまとめて、それに対して委員会が何か作るのであれば、審議の収束点というのもあるだろう。しかし、委員会の役割は基礎案に対して意見を言うことだ。委員会として決めないといけないことはないと理解している。河川管理者から、調査・検討項目について報告してもらい、それについて議論をし、意見を述べるのが、委員会の仕事だと認識している。

スリムになった全体委員会で検討を進めていくことを前提に、地域別部会では任期2年間での収束点を見据えた議論をしていく必要があると思っている。

- ・この部会で議論をして決めなければならないことと、意見やアイデアを出し合っただけで情報を共有しておくことを区別しておく必要があるのではないかと。また、事業の進捗点検では、何をどこまで評価するのか。その結果を今後の河川マネジメントにどのようにフィードバックしていくのか。ある程度統一した見解が必要だ。それぞれの河川の具体的な事例に基づいてフィードバックを検討して、委員会に報告し総合化していくのか。

ご指摘の点は今後議論を進めていく中で意識していきたい。

- ・部会長が部会の議長を務めるとなっているが、他の部会では議長を交代で勤めてはどうかという提案もあった。木津川上流部会上流部会ではどうすればよいか(部会長)。

議長は、全体委員会のペースを見ながら部会長に務めて頂きたい。

部会長も積極的に発言をすればよい。必要に応じて、議事進行役は交代してもよい。

議長は部会長でないといけないが、司会役を副部会長がやってもかまわないだろう。

河川整備計画基礎案に基づく事業進捗状況の点検について

河川管理者より、審議資料1「河川整備計画進捗状況項目（実施）（調査・検討）」を用いて説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。

- ・木津川上流部会が担当する事業進捗点検項目は、淀川部会や琵琶湖部会とは違った側面を持っていると感じた。魚の遡上降下や土砂の流掃は、前期委員会の淀川部会からの提案を河川管理者に真摯に取り組んでもらっている（部会長）
- ・確認をしたい。「調査・検討項目」は、単なる情報収集段階なのか。それとも、すでに効果を確認しながら試行的な実施がなされていて、効果があれば本格的な実施に移行するという段階なのか。

「実施項目」は現地ですで行おうとしている事業で、中には、予算が付く年に実施するという事業もある。「調査検討項目」には幅があり、基礎的な調査もあれば、試行的に実施してみるというものもある（河川管理者）

基礎的な調査・検討と、やってみないとわからないから実際に試験運用してその効果を確認して本格実施あるいは見直すというアダプティブマネジメントは区別した方がよい。もし調査・検討項目の中でアダプティブマネジメント的な試行があれば、モニター結果と効果が確認でき、その結果が事業にどのように反映されるのかが確認できる物差しがあればよいと思った。例えば、魚道であれば、どのように検証してモニターするのか、専門的な観点から意見が述べられる方法があればよいと思う。河川管理者には、事業の評価の方法やその反映の仕方、コストまで含めた時間管理の方法を対象事業の種類毎に出してもらう必要がある。例えば、生物多様性の1年間の試行結果に関して、調査・検討の期間を延ばすのか延ばさないのか、どの程度のコストがかかり、どの程度の効果があったのかといった情報をどのように提供し、委員会の議論の俎上にあげるのか。河川管理者に整理してもらった方がよいのではないかと考えている。

試行的な実施に対する評価方法のスキームが必要だ。評価方法は、河川管理者から提案してもらうものなのか、委員会が提案し河川管理者からレスポンスをもらうべきなのか。いずれにせよ、ノウハウを定型化していくことが求められている。試行は誰が主体となるのか、草刈りを誰がやるのか、住民等を巻き込んでするのか等、そういったことをモデル化すれば他でも使えるようになる。

- ・本日の報告では、試行をモニターする際の時間管理の問題が出てきていない。「いつまでに何をチェックするのか」が出されていない。また、広い意味での「手間」まで含めたコストについて触れられていない。必要に応じて考えていくべきだ。
- ・環境や土砂に関する研究会等があるが、二重に管理している状態で無駄な面もあるのではないかと。特に環境に関しては、非常にコストがかかっており、全体のバランスが悪くなっているケースもある。全体のバランスを考えて、無駄にならないようすべきだ。

流域委員会では、整備計画レベルでの実施・調査検討について、意見を言って頂き

たい。流域委員会では、現地に即した細々としたことにまで意見を言って頂くのは難しいため、現地の方や専門家を交えて検討会や研究会をそれぞれ組織している。そこでの意見交換を踏まえて河川管理者が考えたことを流域委員会に報告して、意見をもらいたい。議論を重複させるつもりはないが、明確に区別できるものではないと思っている（河川管理者）。

- ・環境 22 であげられている魚道について河川環境研究会でどのような検討をしているのか説明してもらってはどうかと考えている。内容は河川管理者と協議する（部会長）。
- ・「河川管理者」は国交省と考えてよいのか。県も含まれるのか。指定区間も入れば、「河川管理者」には奈良県も入るだろう。関西電力等も河川施設の管理者だと言える。

木津川上流域には、国管理とそうでないところがある。河川整備計画の対象は国の管理対象だが、基礎案にもあるように、関係する流域や指定区間にも言及する。例えば、土砂の連続性については、ダム管轄区域ではないが、ダム直下で起きていることなので、これも調査検討の対象にしている。電力施設や井堰は電力会社等が施設管理者のため、河川管理者は改善等をお願いするという立場。ただ、なかなか改善等が進まないという実態もある。こういう実態については、やってもらえるまで待つというのあれば、重要だから河川管理者としてやらなければならない場合もあるだろうと考えている（河川管理者）。

前期委員会からの検討経過報告の確認

部会長より、審議資料 2-1「木津川上流の課題について」、審議資料 2-2「上野遊水地の諸元見直しについて及び上野地区の治水対策案について」、審議資料 2-3「木津川上流の課題について 河川環境（水質）」については、あらかじめ目を通した上で、次回以降の部会で説明して頂き、議論をするとの説明がなされた。

木津川上流部会の課題について

木津川上流域の課題について意見交換がなされた。主な意見は以下の通り。

- ・討議や議論は、全体委員会で行う。地域別部会とテーマ別部会では、全体委員会での議論が円滑にいくように課題を整理し問題提起をして頂きたい。整備内容シートに記載されている地域的な特性のある事業等についても議論・整理してもらい、全体委員会に報告して頂きたい（委員長）。
- ・木津川上流だけが切り離され、木津川上流部会ができた理由について説明して頂きたい。
前期委員会で、次の組織体制について議論して頂き、「次期委員会では事業進捗点検が主たる任務になるので事務所の区分ごとに4部会にする方がよい」という意見を頂いた。これを受けて、4部会を設けてもらうよう委員会に依頼し、4つの地域別部会ができた。地域別部会の守備範囲は各河川事務所管轄範囲だが、相互に関係することがあれば、合同部会や全体委員会等で議論する工夫をしていけばよいと思っている（河川管理者）。
- ・地域別部会では事業進捗項目について審議することになっているが、木津川上流でもっ

とも関心があるのは川上ダムだ。ダムは全体委員会で議論をするということだが、地域別部会で最も重要な課題だろう。地域別部会で決を採ることはないだろうが、議論はきっちりして頂きたい。

- ・治水に関しては、委員会と河川管理者で意見が違っている。遊水地、岩倉狭の流下能力等については十分な議論が尽くされたとは言えない。一般傍聴者の関心も高い。基本的には全体委員会で議論するが、地域別部会での意見交換や情報交換は避けない方がよいと思う。地元と関わりの深い課題については、地域別部会で検討した方がよい。
- ・地域別部会で、水系全体に関する問題（水質、流量管理等）について意見を述べていくのは難しいだろう。地域別部会にいろいろな情報が提供されるのは重要なことだが、何から何まで流域委員会に情報提供してもらい意見を述べないといけないというのは非効率的だ。意志決定に一番近い枠組みの中で議論をし、その中で必要なものだけが委員会に反映されるという流れにしないといけない。
- ・木津川上流の特に治水に興味があり、この部会に所属した。木津川は、主に流砂の面で、淀川にインパクトを与えてきた。この流砂によって、岩倉狭下流部の河床があがってきた。川上ダムや上野遊水地計画を流砂がらみでどう考えればいいのか。治水については、十分には議論されていないので、地域別部会で十分検討をし、全体委員会に報告すればよい。

ワーキンググループ設置の必要性について

木津川上流部会として委員会に提案すべきWGのテーマについて、意見交換が行われた。WGに関する主な提案は以下の通り。

- ・住民を巻き込んだ事業進捗点検項目の評価システムをきちっと考えるのは大切だが、いきなりWGで議論するのはどうか。まずは、委員がたたき台を作り有志で検討してもらう等、委員主導の試行錯誤をしていかななくてはならない。
- ・地域別部会の議論のたたき台を検討する小グループもあってもよいのではないか（部会長）

木津川は委員数も少ないので部会で議論すればよい。部会の議論のたたき台は部会長、副部会長と庶務が考えればよい。

本委員会で発言したりペーパーを出して問題提起し、全体委員会のWGになるならそうしてもよい。

議論のたたき台は、委員が作成するべきで、委員によるメーリングにより意見交換すればよい。

- ・部会の運営方法や課題等は、河川管理者がみることもできる委員によるメーリングリストを利用して意見交換しながら検討していく（部会長）

現地視察、今後の部会について

庶務より、審議資料3「現地視察について」を用いて説明がなされた。

- ・次回の木津川上流部会の開催時期は、運営会議で決定する（部会長）

4. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者3名より発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・河川管理者は「調査・検討の間は地元の地域生活に必要な工事や防災上必要な工事以外はしない」としているが、水資源機構はダム貯水池の西側の付け替え道路工事に着手している。他にも、右岸ダム本体取り付け斜面の森林伐採、原石の一次破碎、バッチャープラント用の敷地造成、2カ所の架橋が行われている。また、ダム関連工事として伊賀市事業「ハーモニーフォレスト計画」が進んでいる。これらの工事がオオタカの餌場を潰し、営巣を邪魔している。委員には、参考資料1を読んで頂き、水資源機構に工事をやめるよう箴言して頂きたい。現地視察でも、こういった現状を見て頂きたい。

事実関係を報告したい。生活に必要な道路、防災上特に途中で止めることができない道路として、付け替え県道工事を実施している。この工事によって発生する土を貯水池予定地に仮置きをする事業は進めている。ボーリングは、河川管理者ではないので、コメントはしない。ダムサイト近辺での森林伐採については、委員会が発足する以前に事業用地として買収した用地もあるが、森林の所有者が計画的に伐採しているということはあるだろう。河川管理者としても、委員にはダム事業用地、道路工事等の現場を見てほしいと思っている。(河川管理者)

- ・延々と議論をしていては、ダム建設が遅れる。私たちは上流で住んでいる。猛禽類の保護について意見があったが、私たちも、猛禽類以外の自然環境も大事だと思っている。旧青山町の町から5kmの場所だが、台風シーズンには道路が水路に変わる。付け替え道路もいつできるかわからない。こんなことでは、過疎が進むばかりだ。ダム完成に伴う道路をできるだけ早くつけてほしい。
- ・前期委員会の宿題が残されている。造らなければならないダムは造らないといけませんが、川上ダムを不要としている論文(浅野論文)がある。ダムWGのリーダーはこの論文について、「この論文のようにはいかない」と述べたが、その科学的根拠を出して頂きたい。利水については、元岡山大学の森滝健一郎氏の論文に「水政策の転換の方向」と『近い水』対『遠い水』があるので、委員にも目を通して頂きたい。生態については、オオタカやオオサンショウウオに関する研究の成果が発表されていないので、出してほしい。ダムが計画された40年前には生態学的な検討は全くされていない。国も研究者も、今、あらためて検討をしなければならないとしている。本当に50年先にダムが必要なのかどうかという点から議論をしたい。
- ・アンケートを持ってきたので、ご協力を願いたい。アンケートには、木津川上流部会の開催会場について触れている。地元を考慮して名張で開催したのだと思うが、これについて、ご意見を頂ければと思っている。本日は、ダムを気にかけてこの会場に来た一般の方も多いと思うが、部会の中でダムについて触れられなかったのは残念だ。住民の心にも答えるということも必要だ。以上